

## 滲出型 FIP 診断アルゴリズム

1. ヒストリー：年齢 種  
 FCoV 感染の機会の有無  
 FIP の猫の 70%は純血種  
 FIP の猫の 50%以上が 2才未満  
 発症数週間前のストレス歴

滲出型 FIP 発生率 年齢と血統		
Age (yrs)	血統腫	雑種
<1	95	79
1	70	42
2-3	53	41
4-5	60	33
6-7	20	21
8-9	23	34
≥ 10	11	14

Soma et al.,2004

2.腹部膨満または呼吸困難を伴う猫の存在  
 臨床検査にて腹部、胸部、心膜または陰嚢で滲出液が認められる。  
 FIP の猫は元気だったり不活発だったり、食欲不振や発熱などが認められる。

3.滲出液の院内検査

膿 血尿 <10g/l FIP ほぼない >0.8 細菌、悪性細胞、主にリンパ球 93%FIP ではない - *	外観 タンパク質 < 30 g/L A/G 比 細胞診 リバルタテスト + FCoV 抗体検査	茶色 透明 無臭 乳白色 >35g/l <0.8 好中球とマクロファージ 陽性 58% +
--	--	--

FIP ほぼないが  
 可能性あり

FIP  
 可能性あり

4.外注検査  
 正常 (< 500ug/ml) は FIP を除外す  
 AGP 上昇 (> 1000ug/ml) 感染を示す  
 FCoV RT-PCR test \*  
 - +

FIP の可能性  
 滲出液に対する FCoV RT-PCR 検査の陰性  
 予測値は、使用されている検査の感度に依存

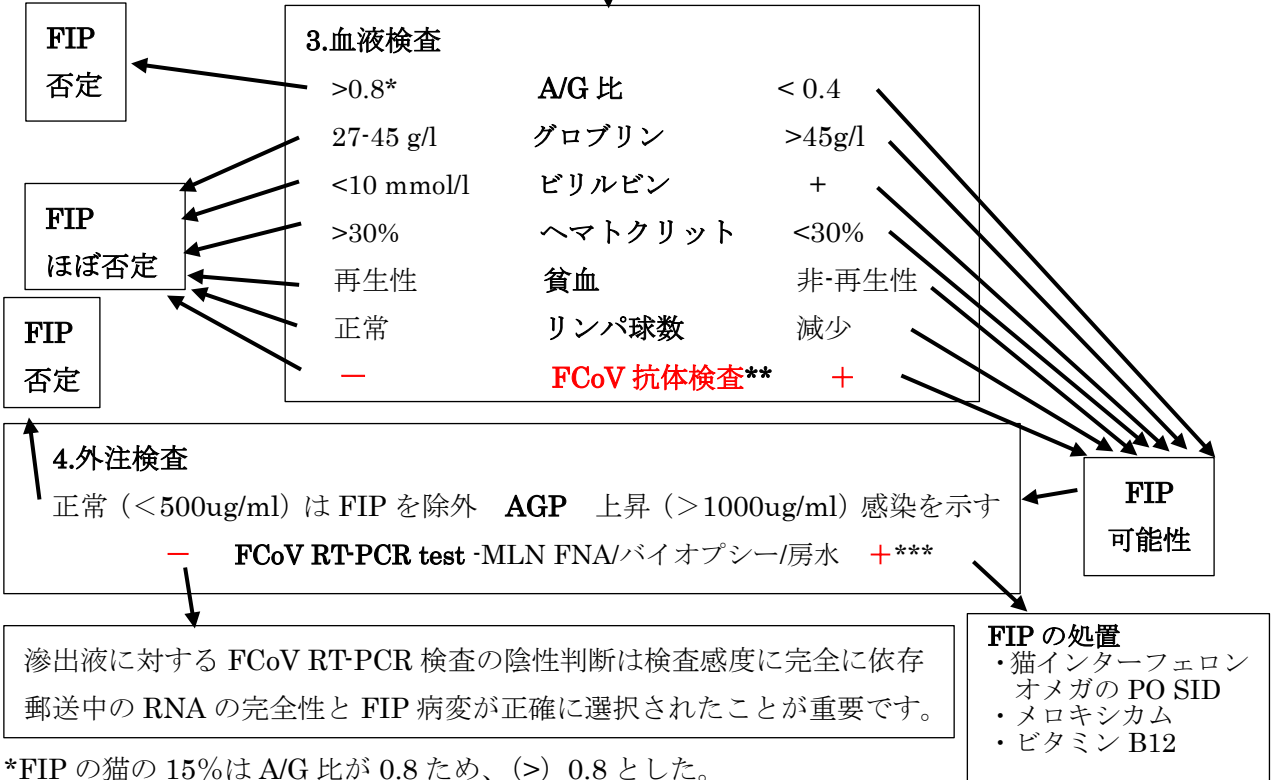
5.FIP の処置  
 ・猫インターフェロンオメガ 1MU/kg SC EOD  
 Or 滲出部位投与、メロキシカム、  
 ビタミン B12

\*偽陰性結果を避けるために、最も感度の高い FCoV 抗体検査の偽陰性結果を避けるため浸出液ではなく血液サンプルで実施する。

非滲出型 FIP 診断アルゴリズム

1. ヒストリー：年齢 種  
 FCoV 感染の機会の有無  
 FIP の猫の 70% は純血種  
 FIP の猫の 50% 以上が 2 才未満  
 発症数週間前のストレス歴

2. 臨床検査 (以下のリストのいずれか)  
 4 日を超える持続的な中程度の発熱  
 不活発、無気力、顔色が悪い  
 減量または正常に体重せず、すなわち発育阻害  
 拒食症/食欲不振  
 眼内徴候 (例：ブドウ膜炎、角膜沈着物、房水フレア、網膜血管の肥厚)  
 神経学的兆候 (例：運動失調、発作、眼振、麻痺)  
 腸間膜リンパ節の拡大  
 黄疸  
 腎臓の拡大



\*FIP の猫の 15% は A/G 比が 0.8 ため、(>) 0.8 とした。

\*\*最高の感度を備えた FCoV 抗体テストキットを使用する。Addie et al, 2015

\*\*\* FCoV RT-PCR は血清・全血では実施しない。

## FCoV の関連が疑われる下痢の診断アルゴリズム

